

【授業科目】 少子高齢社会論

Issues on ageing society with fewer children

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
東川 薫	1年次前期	必修	1	15	講義			可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／団塊の世代の高齢化による病気の増加、医療・介護需要は増加する一方で、少子化の影響で働き手が減っている。社会保障費をどう工面していくのか、年々膨張する医療費はどう負担するのかが喫緊の課題といえる。まず、少子・高齢化に対する考え方を議論し、後に少子・高齢化となった社会的要因を時代を遡って考察させる。少子・高齢化に対応した社会のしくみづくりを考えて「労働問題」「教育問題」「年金・所得保障制度」「医療制度」「福祉制度」を学ばせる。</p> <p>統計データを材料としつつ、現在の制度のみに縛られない、柔軟な思考を学生に求め、単に一方通行の講義形式にとどまらず、常に学生自身に考えさせることを重視して進めていく。少子・高齢化、人口減少に対する必要な社会対応について、根拠とともに自分の考えを説明できるようにする。</p> <p>進め方／オンデマンド形式で行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／講義中に解説する。</p>							
授業の位置づけ	<p>ディプロマポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 人口問題の重要性を説明できる。 ② 少子高齢化、人口減少の社会へ与える影響について説明できる。 ③ 少子高齢化、人口減少に対する必要な社会対応について、その根拠とともに自分の考えを説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>講義内容はもちろんであるが、同時に調べ方、考え方の方法を学んでください。講義中で採り上げた現代社会で議論になっている諸問題について、その考え方のバリエーションを簡潔にまとめられるようにする。それに基づいて自分の考えをその理由とともに組み立てられるようになってください。講義の冒頭にトピックスを尋ねるので、政治・経済・社会に関する日々のニュースを必ずチェックすること。(120分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 少子・高齢化に対する考え方「少子・高齢化は悪いことか?」「少子高齢化を防ぐのか、少子高齢化してもよい社会にするのか?」</p> <p>第2回 少子・高齢化、人口減少の社会的原因 江戸時代から現在まで</p> <p>第3回 少子・高齢化、人口減少の将来見通し、人口減少歓迎論の是非「日本に人は多すぎるのか?」</p> <p>第4回 少子・高齢化、人口減少に対応した社会づくり① 労働力の確保</p> <p>第5回 少子・高齢化、人口減少に対応した社会づくり② 年金、医療、福祉の効率化</p> <p>第6回 男女共同参画と少子化対策の関係「女性が働くから子供が減るのか?」「保育施設を増やせば子供は増える?」</p> <p>第7回 少子・高齢化、人口減少を救うのはAIか、ベーシック・インカム(BI)か?</p> <p>第8回 少子・高齢化、人口減少と地球環境「世界人口は少ないほうがいいのでは?」</p>						全て東川	
評価方法 評価基準	<p>定期試験 70%、小テスト 20%、講義中の教員からの質問に対する態度 10%</p>							
教科書	『人口学事典』(丸善)の東川執筆部分、(図書館に複数冊あるので購入しなくてよい)			参考書等		『地域包括ケアシステムのすすめ』(ミネルヴァ書房)の東川執筆部分		
学生へのメッセージ	<p>講義内容とともに、調べ方、考え方の方法を学んでください。卒業研究のみならず、今後のキャリア形成に必ず役に立ちます。</p>							